

時間的近接関係を表す「なり」の用法

三次 佑果

[キーワード：①接続助詞 ②「なり」 ③時間間隔 ④同時性 ⑤継起性]

1. 研究の目的

本稿では、時間的近接関係¹⁾を表す「なり（以下、ナリとする）」について考察する。このナリは、「息子は母親の顔を見るなり、ワッと泣き出した」のような、動詞の非過去形に続く²⁾ 接続助詞³⁾を対象とすることにする。

このような研究は、日本語教育の方面で盛んであるが、それは単に用例を載せたただけであったり簡単な説明で済ませていたりして、必ずしも細部の相違が明確になっていない場合も多い。三次（2016）において、ナリ同様時間的近接関係を表す「とたん」「瞬間」「やいなや」について、用例分析や辞書記述の検討、アンケート調査をもとにして、それら時間的近接関係をあらわす語の体系化に努めた。「とたん」には、「V—たとたん」や「～。そのとたんに」などさまざまな語型パターンがあり、それによって機能に違いがあることが分かった。また、「とたん」の類義表現とされる「瞬間」「やいなや」も、これらは全くの同義ではない。「瞬間」は単に時間的關係に重点を置いた語群（Ⅰ類）、「やいなや」は時間的意味だけでなく前件後件の意味的関連性を含む語群（Ⅱ類）に大別され、「とたん」の各パターンは両方の特徴を持った語群（Ⅲ類）と考えられた（詳

しくは、三次(2016)参照)。

以上のことを踏まえ、本稿では「とたん」等と類義表現関係にあるとされているナリが、どの語群分類に当てはまるのか、用例の分析と辞書記述を検討して明らかにしていきたい。時間を表す語を体系的に把握することで、日本人が持っている時間に対する意識や時間間隔の特徴を明らかにしていきたい。

2. 研究史

『日本国語大辞典 第二版』(以下『日国』と略す)では、ナリの項目を「動作を表わす語に付いて、その動作の直後である意を表わす」としている。『日国』の記載は、時間的側面にのみ着目しており、ナリでつながれた後件を前件の動作の「直後」とし、どちらかという「継起性」⁴⁾を示唆しているようだ。しかし、「ある動作・作用の完了後、間をおかず、引き続き次の動作」(『日本文法大辞典』(以下『文法』と略す))や「ある動作に続いて、すぐ次の動作」(『あいうえお』でひく日本語の重要表現文型)(以下『あいうえお』と略す))、「動きが時間的に連続」(『現代日本語文法6 第11部 複文』(以下『現代』と略す))、「ある動作が終わったと同時に、他の動作・作用が連続して行われる」(『複合辞からみた日本語文法の研究』(以下『複合辞』と略す))と各先行研究で「引き続き」「連続」のような言葉があるにも関わらず、「継起性」を明言しているものはない。また、『どんな時どう使う 日本語表現文型500』(以下『500』と略す)では「～をすると同時に」という記述がある。これは「同時性」⁵⁾をほのめかしているようである。そして、中村(2005)は「〈時間的直後〉」と「〈同時性〉」の両方があるとしている。このように、時間的側面については「継起性」とも「同時性」ともとれず、各先行論で判断が分かれている。

意味的側面ではどうであろうか。『日本類義表現使い分け辞典』(以下

『類義』と略す)では、ナリを「～とたん(に)」「やいなや」と比較して、以下《表1》のように整理している。

《表1》『類義』 p. 220から引用

	～なり	～とたん(に)	～やいなや
意外で驚く展開	○	○	×
予想通りの展開	○	×	○
生活習慣の場面	×	×	○

この表によると、「～なり」は意外な展開も予想通りの展開にも使うことができるが、生活習慣の場面では使えない⁶⁾ことに特徴があるようである。先に挙げた『500』では「～をすると同時に、ふつうではない動作をした」とあり、こちらは意外な展開のこのみ触れている。このような「意外」「予想通り」という視点とは別の視点から述べているものが『基礎日本語辞典』(以下『基礎』と略す)の「ある特定の状況や様子をとると、そのまま次の(望ましくない)行為や状態に引き続き移ることを表す」である。(主体が)望んでいたこととは違う状態になったという点からみれば「意外」ともとれる。ただ、物事が予想通り、計画通りに進んだ場合でも話し手やその主体によって良くないことであれば「望ましくない」ともいえるため、「予想通りの展開」にもつながると考えられる。

そのような主体の意志に関しては、江(2000)が詳しい。江(2000)では、「後件には、話し手の期待や予想などのような意図的な内容を表すものもあり、また意外や驚きといった非意図的な内容を表すものもある」とあり、『類義』同様「予想(通り)」「意外」という両面性が見受けられる。また「後件の主体が意志を持たない場合は、「～ナリ」が使われず」という記述から、後件の事態の主体は意志を持っていると解釈できる。『基礎』でも「同一主体の意思的な事柄に限られる」とある⁷⁾。

その他、ナリの前接動詞について「運動動詞に前接する」(江2000)、「外

→内」の移動動詞の前接」(中村2005)のように、前件の内容を表す動詞についても検討する必要がある。

以上のことをまとめると次のようになる。

- ・各先行論によって、「継起性」のみ、「同時性」のみ、また両方という記述もあり、判断が分かれている。
- ・後件の内容は、「意外で驚く展開」も「予想通りの展開」も表わしうる。
- ・前件と後件は同一主体であり、その内容は意志的である。
- ・ナリに前接する動詞は、運動動詞または移動動詞である。

3. 研究方法

本稿では、先行する辞書や論文での考察を参考にしつつ、典型的用例をもとに自己の内省を駆使しながら主に演繹的に分析することを中心に論じていく⁸⁾。本稿で使用した用例は、先行研究で扱われているものを優先とし、その他は『現代日本語書きことば均衡コーパス (BCCWJ)』『少納言』『青空文庫』で検索したものである。検索は、文字表記の差異による集計の誤りを防ぐため、「途端」「とたん」「や否や」「やいなや」のように、漢字とひらがなの両方の表記で行った(ただし、ナリはひらがな表記しか確認されなかった)。その中から、例えば「今日の夕飯はかなりおいしい」のように、接続機能語のナリの用例と認められないものは削除した(「とたん」「やいなや」も同様である)。また、表現の置き換えによる作例は用例番号に「'」を付し、その都度示す。

4. 分析

4—1. 後件の内容

後件の内容について考察する。2章でも触れたように、『類義』、『教師と学習者のための日本語文型辞典』(以下『ジャマシイ』と略す)、『複

合辞』では、後件の内容についての記載があるものの、その判断には意見が分かれている。以上3つの先行研究を再度整理すると、次のようになる。

ア：「意外」「予想通り」両用（『類義』）

イ：「予期しない出来事」のみ（『ジャマシイ』）

ウ：「普通ではない事態」「突発的で意外性に富む行為や現象」（『複合辞』）

『ジャマシイ』『複合辞』では、この特色を持つ用例として、以下を挙げている。

1) 家に帰るなり自分の部屋に閉じこもって出てこない。
(『ジャマシイ』)

2) 立ち上がるなり目まいがして倒れそうになった。
(『ジャマシイ』)

3) 会うなり金を貸してくれなどと言うので驚いた。
(『ジャマシイ』)

4) 玄関に入るなり、異様な気配に気づいた。(『複合辞』)

5) 床に就くなり、大きいいびきをかきはじめた。(『複合辞』)

6) 迷子は母親の顔を見るなり、わあーと泣き出した。(『複合辞』)

7) 彼は手紙を見るなり、顔色を変えて立ち上がった。(『複合辞』)

8) そのやせた背中にいよいよ俺は憎しみが湧き、「卑怯者」と言うなり、ちゃぶ台に両手をかけると叩きつけた。

(松本清張『偏狭者の系譜』：『複合辞』)

9) (大泉さんは体育研究室に入って来るなり私に、子供さんの家庭教師になってくれと言うんです、いくら断っても承知してくれませんが、私の代わりにCP女子大の学生を紹介することにして、二月十三日の晩七時にその人と三人で食事をすることになったんです、と語った)と牧山氏は手記に書いている。

(石川達三『七人の敵が居た』：『複合辞』)

まず、『ジャマシイ』で述べられている後件が「予期しない出来事」

かという点を検討しよう。

1)のように、家に帰って自分の部屋から出てこないということは「予期しない出来事」であっただろう。また3)では、話し手は相手と会って好意的に思っていたからこそ、相手から「金を貸してくれ」という好意的とは思われないこと（「予期しない出来事」）を言われたので驚いた、となっている。しかしこのように、「予期しない出来事」という記述では当てはまらない用例もある。6)を見てみると、迷子が母親と再会できたならば、程度はあるにせよ、泣き出してしまうのは予想できるものであろう。

次に、『複合辞』で述べられている後件での「意外性」について検討しよう。

8)のように、発言してすぐちゃぶ台を叩きつけることや、9)のように、(部屋に)入ってきて頼みごとをしても断られるということは、「意外性」を含んでいるといえる。しかし2)のように、目まいがして倒れそうになるのは、立ち上がる前に何かしら予兆があっただろうと推測でき、このようなことは一般的に起こりうることである。また4)の玄関に入って異様な気配に気づくことも、「意外性」と言えるかもしれないが、それだけではない何か今後の良くない展開を暗示しているようである。したがって、「意外性」という記述でもカバーしきれないものがある。

そして、5)は床に就くと大きいいびきをかくことは、話し手のそのような状態になってほしくなかったのにそうなってしまったという意味がこめられている。これは「予期できない出来事」とも「意外性」とも表わしえない。では、後件の内容の特徴はどのようなものかと言えらるだろうか。

ナリの後件について『基礎』の「ある特定の状況や様子をとると、そのまま次の(望ましくない)行為や状態に引き続き移ることを表す」に注目したい。「望ましくない」という表現は、「予期しないこと」「意外性」も含めて、主体にとってマイナス的な感情を起こさせるものを示してい

ると考える。『基礎』で挙げられている用例は以下のものである。

- 10) 顔を見るなり泣き崩れた (『基礎』)
- 11) 酔って帰ってくるなり眠くなってしまった (『基礎』)
- 12) 勝手にしろと言うなり背中を向けてふて寝をしてしまった (『基礎』)
- 13) 「何を」と言うなり殴り掛かってくる始末。 (『基礎』)

10) は6) と似ているが、これだけでは顔を見て泣き崩れる理由がわからないため、「予期できない出来事」や「意外性」かどうかの判断は難しい。そこで『基礎』に従って、泣き崩れることが「望ましくない」こととするならば、泣き崩れる行為をする主体にとってはそうであるかもしれないが、この事態の話し手(受け手)側にとっては「望ましくない」とは言えないのではないだろうか。同じように、12) 13) を見てみる。12) は、ふて寝してしまった本人にとってはこの状態が「望ましくない」からそうになってしまうが、それをされている側もしくは見ている側にとっては、そうとは言い切れない。13) も、殴る本人にとっては相手を傷つけることを自覚すれば「望ましくない」と言えるが、殴られた側もしくはそれを客観視している側からすると、その行為自体は良くないことなのだが、「望ましくない」というよりも「驚き」といった感情のほうが強いのではないだろうか。これらは、前件の事態によって後件が起きているが、その後件を実行する主体にとっては「望ましくない」ことでも話し手(受け手)側にとってはそうではない。つまり、後件の内容を主体の視点に立って解釈するならば、「望ましくない」と捉えられる。

また、11) は酔って帰ってくることによって眠くなってしまうのは「意外」だったのかもしれないが、これは一種の本能的作用ともとれ、本当は起きていたのに眠くなったという感情が含まれており、前述の5) と重なる。これらは、「意外」と思うような「意に反するような結果」と表現できる。

このようなことから、ナリの後件での内容は、「予期しない出来事」や「意外性」を含んだものも見られるが、それだけではなく主体にとって「望ましくない」と思われることや「意に反するような結果」と解釈できるものもある。これらの表現をまとめると、後件の内容はマイナスイメージをもつ事態になることが多く、またそれは話し手（受け手）にとっては「望んでいない事態」であると言える。

1)～13)の辞書記載の用例は出典が載っていないものもあり、作例であると思われるものが多いため、以下で実例を挙げる。

14) 永野氏、七時四十分に起床してきて、虫の居所でも悪かったのか食堂に来るなり大声で怒鳴りちらす。朝食は七時が定刻であり、全員は朝食終了して…… (照井定幸『マダンザリー回想記』)

15) キュッと口をへの字に曲げると、一言きっぱりと言い放った。「俺、帰ります」告げるなり、彼の手から荷物を取り返すと、くると背中を向ける。ローレンスが珍しく慌てた様子……

(辻桐葉『英国紳士の野蛮なくちづけ』)

16) 綾子は自分の肩で要を支え、そろそろと庭まで連れていったが、ようやくと部屋に戻るなり要は朽木の倒れるように寝床に横たわって大きく胸を喘がせ、再び昏睡に似た状態に……

(宮尾登美子『朱夏』)

14) 食堂に来て怒鳴り散らすこと、15)「帰る」と告げて荷物を取り返すこと、16) 部屋に戻り寝床に横たわることは、いずれも後件は前件に対して「望ましくない」ことや「意外性」を含むものであり、後件はマイナスイメージをもつということがわかる。

4—2. 前件と後件の関係性～「やいなや」との比較

三次(2016)において、ナリの類義表現として挙げられることの多い「やいなや」には、後件の出来事が前件の出来事を待ち望んで起こるような「待ち構え」性があることを指摘した。各先行研究では、ともに「継

起性」が強いとされているが、ナリは「やいなや」がもつような「待ち構え」性を有するのだろうか。まず「やいなや」の用例を挙げる。

- 17) ほかほかと宗介の肩を叩いた。「分かっている。…かかった」エンジンが回るやいなや、軽トラックが急発進した。倉庫の角を曲がると、四人分の重量で車体が左に大きく……

(賀東招二『疾るワン・ナイト・スタンドフルメタル・パニック!』)

- 18) 京都でもうイライラの真最中でタバコを口にくわえています。そして、大阪につくやいなや飛び降りタバコに火をつけ大きく吸いこんだものでした。いかに自分がニコチンに毒され……

(高信太郎『ひっそり始める「禁煙」実践ガイド』)

以上は、前件が起きることを待って後件が起きている「待ち構え」性の典型的な例である。17)は、軽トラックが急発進すること(後件)は、そのエンジンが回ること(前件)を待ってから行われる。18)も、タバコに火をつけ大きく吸い込むこと(後件)は、大阪につくことを待っていた、また前件は後件の状態になることを望んでいるともいえる。

前述したように、ナリは前件の行為によって後件にマイナスイメージをもたらす。ナリの用例を挙げる。

- 19) 「えっ、もう生まれたの」母はカーテンを捲って私の顔を見るなり目を丸くした。次は夫の番だった。私をこの朝、産科の準備室に置いて……
(青木裕子『二度目の結婚物語』)

- 20) どこかで見た奴だと思っていたら、警備会社で会ったことがあるんだ」鎌田は面田を見るなり叫んだ。加奈があやうく命を奪われるところだったと、直也が告げると……

(林葉直子『キスだけじゃイヤ』)

ナリの用例を見てみると、前件が後件の行為を待ち望んでいるような「待ち構え」性は見受けられない。19) 私の顔を見ることと目を丸くすること、20) 面田をみることが叫ぶことに因果関係が直結せず、前件の結果、後件が起きて「しまった」というマイナスの方向に事態が動いて

いると取れるからだ。ナリの後件がマイナス的なニュアンスを付加させることは、このことから確認できる。

では、「やいなや」との相互置き換えは可能だろうか。江(2000)ではナりに置き換えが不可能な「やいなや」の用例として、以下を挙げている。

21) 雷が鳴るや否や、電気が消えた。(作例：江(2000))

このような置き換え不可能の文は「自然現象によって起きる突発的な出来事」や「地理描写」についての文で多く、「後件の主体が意志を持たない主体」であるために、ナリは使われないという。ここで試しに21)を「なり」に置き換えてみよう。

21)' ? 雷が鳴るなり、電気が消えた。(入替例)

21)'は非文とは言い難いと思われる。しかし、「やいなや」の文とは受ける印象が違う。受ける印象が違うために、江(2000)は「不可能」としたのかもしれない。「やいなや」からナリへの置き換えによって、その文の意味が少なからず変化してしまうと思われる。17)～20)の用例を「やいなや」はナりに、ナリは「やいなや」に置き換えた形で再度載せる。

17)' ほかほかと宗介の肩を叩いた。「分かっている。…かかった」エンジンが回るなり、軽トラックが急発進した。倉庫の角を曲がると、四人分の重量で車体が左に大きく……(入替例)

18)' 京都ではもうイライラの真最中でタバコを口にくわえています。そして、大阪につくなり飛び降りタバコに火をつけ大きく吸いこんだものでした。いかに自分がニコチンに毒され……(入替例)

19)' ?? 「えっ、もう生まれたの」母はカーテンを捲って私の顔を見るやいなや目を丸くした。次は夫の番だった。私をこの朝、産科の準備室に置いて……(入替例)

20)' ?? どこかで見た奴だと思っていたら、警備会社で会ったことがあるんだ」鎌田は面田を見るやいなや叫んだ。加奈があやうく命を

奪われるところだったと、直也が告げると…… (入替例)

置き換えの用例を見てみると17)・18)・違和感はないが、19)・20)・は不自然な感じがする。つまり、「やいなや」からナリへの置き換えは、印象が多少変化するとはいえ可能であるといえるが、ナリから「やいなや」への置き換えは自然ではないということである。それはなぜであろうか。

17)・18)・は、「やいなや」で表現したときは、後件が前件を待ち構えている状態を示していたが、ナリに置き換えたことによって、「待ち構え」とは違ったニュアンスが加わっているように思われる。17)の「やいなや」は、「軽トラックが急発進すること」を受ける側（宗介、またはその軽トラックに乗っている人）を話し手として、「エンジンが回る」ことを待っていた。しかし17)・は、「軽トラックが急発進すること」を受ける側よりもさらに広く、（その光景をトラックの外で見ているような）外部からの視点をもって語られている。18)の「やいなや」の用例も「（新幹線？）を飛び降りタバコに火をつける」ことはそのタバコを吸う人間側からの視点であり、18)・にすると、その様子を見ている傍観者的な視点になる。このように、「やいなや」の用例をナリに置き換えると、視点の変化が生じ、文の意味が異なってくる。ナリは後件でマイナスのニュアンスを付属するとしたが、この一文だけではマイナスかどうかの判断はできない。しかし、「～してしまった」を付け加えてもおかしくはないので、この時点では置き換え可能と判断する。その他ナリに置き換え可能な「やいなや」の用例とそれをナリに置き換えた用例をを以下に挙げる。

22) ……アイロンだって爪切りだって傘だって気やすく貸してくれる。電話の受話器を取るやいなや、「おはようございます。室井様」とか、「ごきげんいかがですか、室井様」なんて……

(室井滋『まんぶく劇場』)

22)・ ……アイロンだって爪切りだって傘だって気やすく貸してくれる。電話の受話器を取るなり、「おはようございます。室井様」とか、「ごきげんいかがですか、室井様」なんて…… (入替例)

23) こうしたいはずら電話で救護院に入れられたことがありました。しかし放免されるやいなや、再び警察にいたずら電話をかけ始めたのです。再犯ということで、今度はとうとう……
(池下育子『PMS (月経前症候群) と女性のからだ 生理前・生理中がラクになる』)

23)' こうしたいはずら電話で救護院に入れられたことがありました。しかし放免されるなり、再び警察にいたずら電話をかけ始めたのです。再犯ということで、今度はとうとう…… (入替例)

24) ……見きわめて金利が一番安いときにお金の手当をして設備投資を行い、好況に転じるやいなやいち早くスタートを切るのが、優秀な経営者のビヘイビアだったからだ。
(財部誠一『大リストラ時代を生き抜く 就職、転職、投資のポイント』)

24)' ……見きわめて金利が一番安いときにお金の手当をして設備投資を行い、好況に転じるなりいち早くスタートを切るのが、優秀な経営者のビヘイビアだったからだ。 (入替例)

22)～24)の「やいなや」の用例は、視点の変化があるにせよ、22)'～24)'のようにナリに置き換えが可能である。

同じようにナリから「やいなや」への置き換えも可能となるはずだが、19)'20)'のように、実際はそうではなかった。「やいなや」は後件が前件を待ち望んでいるような構造が必要である。もともとのナリの文では、そのような「待ち構え」性はなく、むしろ前件の時点では望んでいなかったことが、後件で起きて「しまった」というマイナス状態を表すため、「やいなや」の文には不自然に感じてしまうのであろう。「待ち構え」性とはマイナス状態を待っているわけではないので、その点でも「やいなや」の表現に当てはまらない。

したがって、ナリは後件でマイナス方向に進むため「やいなや」のような「待ち構え」性は持つことができない。「やいなや」からナリへの

置き換えは、視点変化有りという条件付きで可能である。

4-3. ナリに前接する動詞

ナリに前接する動詞に関して、『基礎』に「意思的な事柄に限られる」という記述がみられた。4-1 であげた『基礎』の用例(10)～(13)を再掲する。

- 10) 顔を見るなり泣き崩れた (『基礎』)
 11) 酔って帰ってくるなり眠くなってしまった (『基礎』)
 12) 勝手にしろと言うなり背中を向けてふて寝をしてしまった (『基礎』)
 13) 「何を」と言うなり殴り掛かってくる始末。 (『基礎』)

ここで扱われていた前件の動詞は、「見る」「帰ってくる」「言う」であった。これら3種類の動詞は意志的であるだろうか。例えば「見る」が使われている10)の場合、「見ようと思って(意志的・意図的に)見た」のか「偶然見てしまった」のかが分からない。「顔を見る」という前件全体の内容を見ても、これだけでは判断がつかない。前件での行為は、意志的な場合もちろんあるだろうが、偶然的、本能的な場合もあると考えられる。

一方で、江(2000)では「運動動詞は前接するが、状態動詞は前接しない」としている。江(2000)がこの記述にあたる用例として挙げているものは次のものである。

- 25) 「おや清さん、どうしたんだねえ血相をかえて……」婿の顔を見
るなり、からかい気味にお富は言った。

(杉本苑子『鶴渡る』: 江(2000))

江(2000)では運動動詞と状態動詞の2つに大別して論を進めている。この用例の「見る」もその2分類では運動動詞とみなすことができるため、意志的であるかどうかは不明だが、江(2000)の説は妥当と言えるだろう。他の用例も見よう。

26) ……関心が金貨にと移る。綴喜はショルダーバッグから手を出した。手榴弾を安全把ごと握るなり、ピンを素早く抜く。「畜生！」一瞬遅れて金髪の男の銃口が彼の胸を狙った。

(柘植久慶『海底の煌き』)

27) その平八からつぎつぎとみんなに金がふり分けられていく。受けとるなり、大半は浮き足だって山をかけおりにいった。小松は分けまえを片手ににぎって……

(中川なをみ『水底の棺』)

28) ……ちょっとでも人と違っていると指導室行きなんです」つい先日も、綾瀬君は登校するなり、校門で待ち構えていた先生にチェックされ、注意を受けた。理由は、学生服の上に……

(増田明利『壊れかけの高校生』)

これら「握る」「受けとる」「登校する」はいずれも運動動詞であり、状態動詞ではないことから、江(2000)の通り、ナリに前接する動詞は運動動詞であるといえそうだ。

中村(2005)では、江(2000)の説をさらに狭め、「[外→内]の移動動詞の前接」と述べている。中村(2005)がこの記述に該当する用例として挙げているのが以下のものである⁹⁾。

29) 女は入ってくるなり椅子に片足を乗せて両腕を組んだ。

(田口ランディ『アンテナ』: 中村(2005))

30) 牧野蘭子は入ってくるなり自分でカーテンをひき、窓を開けた。

(平岩弓枝『パナマ運河』: 中村(2005))

31) ロエスは帰ってくるなりまっすぐに父親の部屋へ行って、こんなことを訊ねたという。「父さん、ヒトは、無限に生きることはできないの?」

(佐伯誠『ブラボー』: 中村(2005))

32) 「うーん、これはまた珍しいですねえ!」僕は席に座るなりホステスの頭をしげしげと眺め、へえ日本髪ってこうなってるのかァと感心した。

(原田宗典『東京見聞録』: 中村(2005))

33) 私が助手席に座るなり、男は金切り声をあげる。「なんでSと寝た」

(田口ランディ『もう消費すら快樂じゃない彼女へ』:中村(2005))

- 34) 何番目かに訪れた管理事務所でのことだった。父は改札を出るなり社員らしき男性から、「僕、新幹線で一緒の車両でした。土地を見に行くって聞こえたので、うちにも来てくれたらいいなあと思ってたんです」と歓迎されてしまった。

(高木美保『木立のなかに引っ越しました』:中村(2005))

確かに、中村(2005)で挙げられていた用例もすべて運動動詞であり、「入ってくる」「帰ってくる」などは移動ととらえることができ、29)~34)の用例の説明としては適している。しかし『基礎』や江(2000)の用例で使用されていた「見る」「言う」は、その主体の動作(移動)を伴わずともできることであり、中村(2005)で述べられているような移動動詞とは言えない。ほかの用例はどうであろうか。

- 35) ……この連載がはじまって、はじめての読者からの手紙です。一読するなり、ううむと頭をかかえこんでしまいました。これはつくりごとではない証言だと思います……

(瀬戸内寂聴『わが性と生』)

- 36) ……持ち出されたときには、アラームが鳴るってわけね」賢島の真珠店での出来事を省みるなり、口もとに苦いため息がこみ上げてくる。「で、このタグを感知するアンテナ装置は……

(渡辺容子『流さるる石のごとく』)

- 37) 次に、『週刊ホース』社へ電話し、松本を呼び出して貰った。松本は、電話に出るなり、「玉木善男が死んだそうですね」といった。「耳が早いな」「こういう情報は……

(西村京太郎『日本ダービー殺人事件』)

「一読する」「省みる」「(電話に)出る」は、いずれも運動動詞であるが、“移動”ではない。それぞれは主体のその場での行為であり、外から内へ「入ってくる」「帰る」ような場所、環境の変化は見出すことができない。これらのことから、ナリに前接する動詞は、「入ってくる」「帰る」の

ような運動動詞であり、かつ移動動詞と、「見る」「(電話に) 出る」のような運動動詞ではあるが「移動を表す」と言えないものの2つに分類できるといえよう。前者をここでは仮にAタイプ、後者をBタイプとしておく。2分類の詳述のために以下に再度用例を載せる。

Aタイプ (運動動詞かつ移動動詞)

28) ……ちょっとでも人と違ってると指導室行きなんです」つい先日も、綾瀬君は登校するなり、校門で待ち構えていた先生にチェックされ、注意を受けた。理由は、学生服の上に……

(増田明利『壊れかけの高校生』)

29) 女は入ってくるなり椅子に片足を乗せて両腕を組んだ。

(田口ランディ『アンテナ』: 中村 (2005))

Bタイプ (運動動詞ではあるが移動動詞ではない)

25) 「おや清さん、どうしたんだねえ血相をかえて……」婿の顔を見るなり、からかい気味にお富は言った。

(杉本苑子『鶴渡る』: 江 (2000))

37) 次に、『週刊ホース』社へ電話し、松本を呼び出して貰った。松本は、電話に出るなり、「玉木善男が死んだそうですね」といった。「耳が早いな」「こういう情報は……

(西村京太郎『日本ダービー殺人事件』)

Aタイプの前接動詞は、移動動詞である。28) は (おそらく) 家から学校へ「登校する」、29) は (部屋に) 「入ってくる」場面であり、主体のいる場所 (環境) が前件から後件にかけて変化している。これは、外から内への環境変化 (前件の内容) が次の作用 (後件の内容) を導いているものである。28) は、家から学校へ環境が変化し先生にチェックされる、29) は外から部屋に入ってくるという環境変化があるからこそ椅子に片足を乗せて両腕を組んだ状態ももつことができる。前件の移動動詞による環境変化が後件の変化をもたらしているため、中村 (2005) では「外→内」の移動を表す動詞」と記述したと思われる。

Bタイプは中村（2005）では特に触れられていないものである。25）は前件の「婿の顔を見る」ということによって、後件のお富の発言になる。37）は松本が電話に出たことによって会話が始まったことになる。これらの前件の動詞は移動動詞ではないため、Aタイプのように前件から後件への場所・環境の変化は起きていない。しかし、主体に何らかの変化をもたらしたとは言うことができる。25）は主体が「婿の顔を見る」、37）は「電話に出る」というそれまでの行為とは別のこと（外的なこと）が精神的変化をもたらしている。Bタイプは場所や環境の変化ではなく、外的なものや情報が主体に精神的変化をもたらすことによって、後件での作用が起こると捉えなおすことができる。

以上のことを鑑みてナリは、前件での移動動詞による場所や環境の変化（Aタイプ）、外的な情報による精神的変化（Bタイプ）によって、後件での変化や作用を導いている。ここでは2タイプに分けて考察したが、いずれの場合も前件は外的なものによって引き起こされる変化であり、それによって後件の事象が起こることは共通しているため、このことがナリの前接動詞の特徴と言えよう。

4—4. 前件と後件の時間間隔

ナリの前件と後件の時間間隔を調べるため、類義表現である「とたん」の用例と比べて考察していきたい。

中村（2005）では、ナリと「V—たとたん」¹⁰⁾で比較をし、互いに置き換えられるものがあるという結論を出していた。中村（2005）が置き換え可能としている用例を以下に挙げる。

「V—たとたん」の用例

38) すると父が改札で仁王立ちになって待っている。父は改札を出たとたん(○出るなり)、私をぐうで殴り、送ってくれた彼等に向かってひとこと。「こんな女とつきあうなっ！」

(林雄司編『死ぬかと思った』：中村（2005）)

- 39) 門を入ったとたん(○入るなり)、まずこう思った。「混んでいる…」
(原田宗典『東京見聞録』：中村 (2005))

ナリの用例

- 40) 私が助手席に座るなり(○座ったとたん)、男は金切り声をあげる。
「なんでSと寝た」

(田口ランディ『もう消費すら快樂じゃない彼女へ』：中村 (2005))

- 41) 何番目かに訪れた管理事務所でのことだった。父は改札を出るなり(○出たとたん)社員らしき男性から、「僕、新幹線で一緒の車両でした。土地を見に行くって聞こえたので、うちにも来てくれたらいいなあと思ってたんです」と歓迎されてしまった。

(高木美保『木立のなかに引っ越しました』：中村 (2005))

確かに互いに置き換えても不自然ではない。前件と後件の時間間隔を見てみると、38)「改札を出る」→「ぐうで殴る」、39)「門に入る」→「混んでいる (と思う)」、40)「助手席に座る」→「男が金切り声をあげる」、41)「改札を出る」→「男性から声をかけられる」は、いずれも前後が数秒または数分以内に起こるものである。

では、「V—たとたん」に「に」を加えた「V—たとたんに」はどうか。「とたん」を記載した辞書や先行する論文では、「V—たとたん」と「V—たとたんに」を区別せず扱っており、その機能の違いは示されていない。「V—たとたんに」の用例を分析し、「V—たとたん」と同じようにナリと置き換えられるのか検討する¹¹⁾。

まず、「V—たとたんに」の用例をそれぞれあげる。

- 42) ヨーロッパを巡る新婚旅行から帰ってきた途端に、新妻はさっさと会社をやめてしまったのである。

(池澤夏樹『インパラは転ばない』：中里 (1998))

- 43) 『通勤快足』(レナウンの抗菌防臭加工靴下)が、ネーミングを改めたたとたんに、売れ行きが驚異的に伸びたことはあまりにも有名である。
(星野匡『すぐ役に立つネーミングの本』)

- 44) ……それに見合うだけの実力を見込まれたからである。中には資格を取ったとたんに昇格したり、花形部門に異動話があったり、給料がポンと上がった人も少なくない。

(中島孝志『35歳までに決まる！お金持ちになれる人なれない人』)

42) 「新婚旅行から帰ってきた」→「会社をやめる」、43) 「ネーミングを改める」→「売れ行きが驚異的に伸びる」、44) 「資格を取る」→「昇格したり」「異動話があったり」というように、「V—たとたんに」であらわされる前件後件の時間間隔は、ある程度大きい(長い)と言えるものが多い。42) 旅行から帰ってきてそのまま会社を辞めたわけではないであろうし、43) ネーミングを改めるというのは、会議等で決定したことであると推測できるため、改めるその時から売れ行きが伸びるわけでもない。ましてや44) 資格を取った時点でそのまますぐ昇格したり異動話があったりするわけではない。「V—たとたんに」であらわされる前件と後件の時間間隔は少なくとも数時間、長くて数ヶ月ほどの時間を有すると考えられる¹²⁾。

42)～44) をナリに置き換えてみよう。

42)' ヨーロッパを巡る新婚旅行から帰ってくるなり、新妻はさっさと会社をやめてしまったのである。(入替例)

43)' 『通勤快足』(レナウンの抗菌防臭加工靴下)が、ネーミングを改めるなり、売れ行きが驚異的に伸びたことはあまりにも有名である。(入替例)

44)' ……それに見合うだけの実力を見込まれたからである。中には資格を取るなり昇格したり、花形部門に異動話があったり、給料がポンと上がった人も少なくない。(入替例)

いずれも違和感がないため、置き換え可能と見てよいだろう。中村(2005)と42)～44)、42)'～44)'から、「V—たとたん」「V—たとたんに」はナリと置き換えられることが分かった。「とたん」とナリは同じような時間間隔を持っているということなのだろうか。

次にナリの用例を挙げる。

- 45) 一直線に庭を通り抜け、もどかしげに草履を脱ぎ捨てるなり、無遠慮に縁側廊下から座敷へ上がり込んできた。

(小松重男『川柳侍』)

- 46) ……顔を歪めた。「ああ。おまえの心を占めてるのは、あいつだけだからな」言い捨てるなり、位置を移し、戸塚は突然、一帆のジーンズに手をかけた。止める間もなく……

(西村寿行『ガラスの壁』)

- 47) 思いあまって、『桔梗』に行ってみたのだが、上條の姿を見るなり、「いらっしゃいませ」と儀礼的に声をかけただけで、洗い場に引っこんでしまった。(内館牧子『愛しすぎなくてよかった』)

45)「草履を脱ぎ捨てる」→「座敷へ上がり込む」、46)「言い捨てる」→「突然」「手をかける」、47)「上條の姿を見る」→「儀礼的に声をかける」というように、ナリで表される前件と後件の時間間隔は数秒または数分で起こるものである。「V—たとたんに」が数日から数ヶ月を有すると推定できたことに対し、その間隔は小さいといえる。「継起性」と位置付けられることが多いナリだが、「V—たとたんに」と比べると時間間隔は短いものであるだろう。

45)～47) をナリから「V—たとたんに」へ置き換えてみよう。

- 45)′? 一直線に庭を通り抜け、もどかしげに草履を脱ぎ捨てたとたんに、無遠慮に縁側廊下から座敷へ上がり込んできた。(入替例)

- 46)′? ……顔を歪めた。「ああ。おまえの心を占めてるのは、あいつだけだからな」言い捨てたとたんに、位置を移し、戸塚は突然、一帆のジーンズに手をかけた。止める間もなく……(入替例)

- 47)′? 思いあまって、『桔梗』に行ってみたのだが、上條の姿を見たたとたんに、「いらっしゃいませ」と儀礼的に声をかけただけで、洗い場に引っこんでしまった。(入替例)

これらを見てみると、ナリから「V—たとたんに」への置き換えは難

しいと言える。本稿執筆者の内省や周囲の者への聞き取り調査でも、「自然である」という回答は得られなかった。したがって、「V—たとたんに」からナリへの置き換えは可能でも、ナリから「V—たとたんに」への置き換えは不可能であるといえる。「V—たとたんに」が表す数時間または数日という時間間隔は、ナリでは許容できるにもかかわらず、ナリが表す数秒または数分ほど、という時間間隔は「V—たとたんに」では受け入れられないということである。

中村(2005)、ナリと「V—たとたんに」の用例置き換え分析の結果から、「V—たとたんに」が許容できなかったナリの数秒、数分ほどという時間間隔を「V—たとたん」では担うことができるということが分かる。つまり、「V—たとたん」「V—たとたんに」はナリに置き換えられるが、ナリから「とたん」への置き換えには制限がある。これを図にしてみると《図1》のようになる。

V—たとたん	→置き換え→	○なり	→置き換え→	○V—たとたん
V—たとたんに				×V—たとたんに

《図1》「とたん」とナリの置き換え構造

中村(2005)は、ナリと「V—たとたん」との置き換え部分の考察で、「V—たとたん」とナリのどちらにも「〈時間的直後〉」と「〈同時性〉」を認められるとしている。中村(2005)が示す「同時性」「時間的直後」の定義が分からないため、「直後」がどの程度後のことまで指すのかはわからない。ただ、《図1》のような置き換え用法が見られるということは、ナリは時間間隔が短いものにも(ある程度)長いものにも用いることができると言えるのではないだろうか。したがって、中村(2005)での「同時性」と「時間的直後」の両面を含むという指摘は、この点から言えば首肯できるものである。

また、ナリから「とたん」への置き換えという点で、「V—たとたん」は可能であるにも関わらず「V—たとたんに」は不可能である理由は、

「に」の影響があるかもしれない。時間副詞には「すぐ」と「すぐに」、「先」と「先に」など、「に」の有無を使い分けているものがある。「すぐ、来て」と「すぐに、来て」では受ける印象が違おうだろう。このようなことから、「に」が付属すると、付属しない場合とに比べて時間的な幅が生まれると考えられる。これについてはまだ考察が不十分である。今後の課題として、「とたん」の他のパターンとの置き換えを試みるなどして明らかにしていきたい。

6. まとめ

本稿で考察してきたナリの用法をまとめると以下ようになる。

- (1) 前件から後件の時間間隔は数秒程度のごく短い時間から長くても数分程度で起こっていると受け取れる用例が多い。
- (2) 後件の内容は、予期しない出来事や意外性を含んだ、主体にとって望ましくないこと、また意に反するような結果であることが多い。また、それは話し手(語り手、または動作の受け手)にとっては望んでいない事態でもある。
- (3) ナリの後件の事態の成立は、移動動詞による場所や環境の変化、外的な情報による精神的変化を表している前件の事態によって導かれるものが多い。
- (4) ナリを「やいなや」に置き換えることはできないが、「やいなや」をナリに置き換えることはできる。ただし、それはその話題の話し手の視点(「やいなや」)から、話題を傍観している外側の視点(ナリ)への変化を伴う。
- (5) ナリは「V—たとたん」との相互置き換えは可能である。しかし、「V—たとたんに」をナリに置き換えることはできても、ナリを「V—たとたんに」に置き換えることはできない。

注

- 1) 時間的近接関係とは、「前件と後件の出来事がほぼ同時に、あるいは引き続いて起こる」(中里1998)語のことである。本稿における「時間的近接関係」は、中里(1998)によるものとする。このような時間的近接関係をあらわす語は他にも「際」「さなか」「拍子」「が早いかなどがある。本来であればこれらすべての語の用例調査を行うべきであるが、紙幅の都合上今後の課題とする。
- 2) ナリには、「黙って家を出たなり帰ってこない」(『基礎』)のような過去形に続くものや「担任の女先生は腰かけたなりで何も言わずにいたが……」(幸田文『みそっかす』)のような「なりで」とするものも見受けられる。これらは、非過去形に続くナリとは異なる用法を持っているため、本稿の研究対象からは除外するものとする。
- 3) 本稿では、ナリを「接続助詞」としたが、これはあくまでも統語的な面でのものであり、いわゆる学校文法などでは助詞の範疇には含まれていないものとする。
- 4) 本稿では、非過去形接続のナリを分析対象としているため、過去形接続のナリのみを取り上げている『日本語表現文型』の「過去・完了の助動詞「た」を受けて、「Aしたうえ(で)Bする」「Aしたすえ(に)Bする」「Aしたあげく(に)Bする」の形をとり、ABの継起を捉える役割を持つ」ものが「継起を示す」という記述とは、「過去・完了の助動詞「た」を受けて」という部分で異なる。ナリは過去形、非過去形どちらも接続する場合があるが、基本的な「[A] (前件) [B] (後件) の継起を捉える」という点では変わらない。よって、この点をもって本稿における「継起性」とする。
- 5) 『日本語表現文型』では、「～するとすぐに” “～とほとんど同時に”の意で前件と後件がほぼ同時に起こることを示す表現」を「同時性を示す」としている。
- 6) 『類義』で「使えない」と述べている「習慣となっている日常の場面」とは、「いつものように、目覚まし時計が鳴るなり、スウェットスーツに着替えて、ジョギングに出かけた」のようなものである。「今日から試験が始まったので、今朝は目覚まし時計が鳴るなり起きだし、パンをほおぼりながら、ノートに目を通した」のように日常の場面でも習慣ではないことには用いることができる。
- 7) 『基礎』では「意志」ではなく「意思」と表現していた。『基礎』著者の意向は不明だが、本稿では、『基礎』の引用部分以外では統一して「意志」を用いることとする。
- 8) 分析する方法としては、それ以外にも、多くの用例(データベースやコー

バス等)から帰納的に傾向を導き出す方法、条件を固定・限定してアンケート等の方法で母語話者の使用意識を調査する方法などが考えられるが、今後の課題とする。

- 9) 中村(2005)で「〔～なり〕=〔～たとたん〕」として挙げられていた用例は除く。
- 10) Vは動詞を表す。「V—たとたん」は「落ちたとたん」「入ったとたん」のように動詞の過去形に接続する「とたん」のことを示す。中村(2005)では「～たとたん」と表記しているが、ここでは「とたん」のバリエーションを考慮し、上のような動詞を「V」とした形に統一する。
- 11) 中村(2005)での「なり」と「V—たとたん」の置き換え例を挙げるが、本来ならばその他さまざまなトタンのパターンとの置き換え比較が必要であろう。しかし本稿では一先ず「なり」と「V—たとたんに」だけに注目し考察を進めるため、それらについては今後の課題としておきたい。
- 12) 「V—たとたんに」で表される時間間隔を数時間から数か月ほどと述べたが、これはあくまでも用例から受ける印象、推測である。統計学的に位置づけるものではないことをご了承願いたい。

参考文献

- 安部清哉・三次佑果（2016予定稿）「「とたん（途端）」の複合形式の比較——「～たとたん（に）」「～。そのとたん（に）」「～。とたんに」の時間的差異——」（仮）池松孝子・奥田順子（1997）『「あいうえお」でひく日本語の重要表現文型』教育専門出版
- 泉原省二（2007）『日本語類義表現使い分け辞典』研究社
- 江雯薫（2000）「「～瞬間（ニ）」、「～途端（ニ）」、「～ヤ（否ヤ）」、「～ナリ」——その共通点と相違点について——」『岡山大学大学院文化科学研究科紀要』9
- 田中寛（2010）『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子（1996）『どんな時どう使う 日本語表現文型500』アルク
- 中村重穂（2005）「「～なり」と「～たとたん」に関する一考察——意味論的観点から——」『北海道大学留学生センター紀要』9
- 日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法6 第11部 複文』くろしお出版
- 松村明編（1971）『日本文法大辞典』明治書院
- 三次佑果（2016. 1. 12提出）『近現代語における時間的關係を表す接続機能語の研究——「とたん」の用法を中心に「瞬間」「やいなや」「なり」と比較して——』学習院大学大学院人文科学研究科、修士論文（指導：安部清哉教授）
- 三次佑果（2016）「時間的近接関係をあらわす接続機能語の分類——「とたん」「瞬間」「やいなや」——」『学習院大学大学院 日本語日本文学』12
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店
- 森田良行・松木正恵（1989）『日本語表現文型』アルク

付記

本稿は、次の口頭発表を経てまとめた三次の修士論文の一部をもとにし、その一部について、提出後に安部清哉教授のご助言を追記しつつまとめなおしたものである。口頭発表、修士論文また本稿執筆にあたって終始適切な助言を賜り、丁寧かつ熱心にご指導してくださった安部清哉教授には、心より感謝しております。

- 三次佑果 (2015. 11. 7) 「時間的近接関係をあらわす接続機能語——「とたん」の用法を中心に——」平成27年学習院大学国語国文学会秋季大会、於：学習院大学西5号館201教室
- 修士論文：三次佑果 (2016. 1. 12提出) 『近現代語における時間的関係を表す接続機能語の研究——「とたん」の用法を中心に「瞬間」「やいなや」「なり」と比較して——』学習院大学大学院 (指導・安部清哉教授)

"Nari" that express a short period

MITSUGI, Yuka

In this article, I argue “nari” that express a short period. A description of many dictionaries about “nari” is differ now. I analyze many example sentences, referring them.

As a result, I think that “nari” has five characters. First, an interval front thing and back thing is a few seconds or a few minutes. Second, back thing of “nari” has an unexpected and undesirable thing for subject. So, it is the situation that a speaker doesn’t hope. Third, front thing of “nari” has a verb that express a change of place (“a movement verb”) or a change of mind from outside information. Fourth, “nari” can’t replace “yainaya”. But “yainaya” can replace “nari”. It brings a change of view from speaker to onlooker. Finally, “nari” can replace “V-tatotan” each other. “V-tatotanni” can replace “nari”. But “nari” can’t replace “V-tatotanni”.

(平成27年度日本語日本文学専攻 博士前期課程修了)